

本番に向けて準備する

資料作成の完成だけでは準備完了ではない
直前まであらゆる準備と努力を続けよう

水谷正大 mizutani@ic.daito.ac.jp

Masahiro Mizutani

表現者として

- 事実、他者の意見・考えと自分の意見を峻別
 - 表現者であるための最低限のルール
- 嘘はつかない
 - 針小棒大に話をゆがめない
- プレゼンは総合パフォーマンス
 - 聴衆をみる
 - 話の間の取り方
 - 身振り手振り、歩き回る

Masahiro Mizutani

原稿を作成すべきなの？

- 原稿を読みながら説明するという愚
 - 草稿は必要だ（考え抜いた内容と表現で）
 - が、そのまま再現しようとするは棒読みに
 - 聴くだけで分かり易く 自分の言葉に咀嚼
- プレゼンの流れや構成はメモ程度に
 - プレゼンの細部までを暗記しようとはしない
 - 伝えたい事柄は既に頭に入っているはず
- 聴衆をみながら、反応を観察する
- 何度でも発表練習する

Masahiro Mizutani

資料説明がプレゼンなの？

- 「プレゼン≠資料」
- プレゼンの主役は登壇者自身
- 詳細なデータや文書は後からでも配布できる
 - 先に配布すると聞いてくれないことも
- 資料を原稿代わりにはしない
 - スライドを読み上げない（説明にならない）
- 話者の説明を補助するために資料がある
 - 事実の報告などには資料は大切

Masahiro Mizutani

資料の推敲

- ・ 提示の順番はどうか
- ・ 対象となる聴衆に相応しい内容なのか
- ・ 理解・納得させることができるか
- ・ 質問に答えるに十分な資料はあるのか
- ・ 与えられた時間で終わられるのか

Masahiro Mizutani

プレゼンテーションのダメ

- ・ 原稿を棒読みしない（絶対にダメ）
 - ・ 聴くだけで分かるように（朗読は大切だ）
 - ・ 大きく明瞭な声で（マイクとかで工夫）
 - ・ 自分の言葉で語りかけ、聞いて混乱しない簡単な用語
- ・ スライドでは20文字以上で説明しない
 - －スライドを原稿代わりにしない（横着）
 - －アニメーションを多用しない（自己満足に過ぎない）
- ・ 細かく複雑な図表を使わない
- ・ 何度も推敲・練習してから本番を迎える

Masahiro Mizutani

練習、創意、工夫あるのみ！

- ・ 実際に話してみて、不自然な箇所がないか
 - －話と資料がうまくシンクロしてるか
- ・ ぴたりと予告時間内で終了できるまで何度も
 - －最低3回は仲間内で事前練習する
- ・ パソコン機器の点検
 - －ファイルはUSBメモリなどで別に持ち歩く
 - －接続機器・ケーブルを忘れてないか
 - －パソコンが壊れたときのための対策

Masahiro Mizutani